ヒトクチタケで採集した甲虫類
（兵庫県甲虫相資料・２０２）

高橋寿郎

ヒトクチタケ Cryptoporus volvatus (Pk.)Hubb.（サルノコシカケ科）は，クリの実形またはハマグリ形で，マツが枯れるといちばん早く発生するキノコであり，干魚に似た臭気を発し，昆虫をよぶ（保育社カラー自然ガイド　きのこ，p.13,1980）．採集などに出掛けると，お目にかかるキノコである．

このヒトクチタケに集まる甲虫については，玉貫光一氏（1930），飯田信三氏（1938）の報文があり，中根猛彦博士がそれらをふくめて一応のまとめを行った（1948）．そのなかで11種の甲虫が図入りで解説された．その後，久松定成氏は２種のヒトクチタケにくる甲虫の紹介を行った（1962）．また最近，林長閑博士も“ヒトクチタケにやってくる偏平な虫たち”と題して解説を行っている(1986).

筆者は，1987年６月５日と11日に西宮市山田町船坂（六甲山北面山麓にあたり，標高約400m）にて，かなり大きな立ち枯れのマツの樹にヒトクチタケが多くついているのを見出し，蜂谷幸雄氏の協力を得て，ちょうど手を延ばして届きそうな高さまでのヒトクチタケ10数個から甲虫を採集してみた．手の届かない所にもヒトクチタケはあったが，小さく感じた．やはり地面に近いところのヒトクチタケには多く入っているように思われた．採集を行ったのは６月５日と11日であり，大部分が６月５日の採集品であった．前記報文に出てくる種のうち，今回はデオキノコムシ類とオオコクヌスト，ナガニジゴミムシダマシなどが採れなかった．すなわち，いままで報告されている種のうち４種が今回採集できなかったが，逆に今回はこれまでの記録以外に７種もの種が得られた．この２日間にこのマツのヒトクチタケより採集できた甲虫のリストを掲げると，次のとおりである（カッコ内は採集個体数）．

ヒトクチタケより採集した甲虫（○印は今回初めてヒトクチタケより記録するもの）

○Physoronia explanata Reitter

キノコヒラタケシキスイ（ケシキスイ科）（５）

Aphenolia pseudosoronia Reitter
オオヒラタケシキスイ（ケシキスイ科）（1）
Cryptophagus enormis Hisamatsu
オオナガキスイ（キスイムシ科）（14）
○Dacne picta Crotch
セモンホソオオキノコムシ（オオキノコムシ科）（14）
Mycetophagus antennatus (Reitter)
ヒゲブトコキノコムシ（コキノコムシ科）（12）
○Mycetophagus hillerianus Reitter
ヒレルコキノコムシ（コキノコムシ科）（3）
Parabolitophagus felix (Lewis)
カブトゴミムシダマシ（ゴミムシダマシ科）（4）*
Platydema lynceum Lewis
オオメキノコゴミムシダマシ（ゴミムシダマシ科）（2）
○Platydema sylvestre Lewis
チビキノコゴミムシダマシ（ゴミムシダマシ科）（2）
Platydema recticorne Lewis
ツノボソキノコゴミムシダマシ（ゴミムシダマシ科）（11）
○Platydema nigropictum Nakane
ヒメオビキノコゴミムシダマシ（ゴミムシダマシ科）（1）
Platydema subfascia (Walker)
ベニモンキノコゴミムシダマシ（ゴミムシダマシ科）（18）
Ischnodactylus loripes Lewis
ヒラタキノコゴミムシダマシ（ゴミムシダマシ科）（12）**
○Toxicum tricornutum Waterhouse
ミツノゴミムシダマシ（ゴミムシダマシ科）（1）
○Macrorhyncolus crassiusculus Wollaston
マツオオキクイゾウムシ（ゾウムシ科）（1）

（注）このうち1ex.(*)，2exs.(**)はヒトクチタケの中に幼虫の形でいたものをヒトクチタケごと持ち帰り，容器の中に放置しておいたところ，7月15日（*）成虫になったものと7月22日（**）成虫になったもの．

以上のように15種98exs.（＋３exs.が，注記のごとく幼虫で採取後に成虫となる）もが採集できた．前に記したように標高400mくらいの所にある１本の立ち枯れのマツの樹に生じたヒトクチタケ10数個から得られたものであるから，かなり条件がよかったとも思われる．

1986年にも散発的にヒトクチタケより甲虫を採集しているが，このように多種多様の甲虫に出会ったことはない．

このうち，オオナガキスイとセモンホソオオキノコムシの２種について若干説明しておきたい．

○　オオナガキスイ Cryptophagus enormis Hisamatsu は，芝田太一氏が奈良県春日山のヒトクチタケより採集した５頭の標本に基づいて久松定成氏が1962年，上記学名で記載した種である（Niponius 1(20):1-3,Fig.1,2）．

同じ年，久松氏は邦文で本種について解説を行っている．最近では，佐々治寛之博士が原色で図説をしている（原色日本甲虫図鑑Ⅲ，pl.33,f.9,p.206,1985）．分布は本州，四国である．

兵庫県からの記録は，仲田元亮氏により川西市笹部がある（1979，1982）．それ以外知られていなかったようであったが，今回は14exs.（7exs.，5-Ⅵ-1987，7exs.,11-Ⅵ-1987）も採集することができた．案外，この種は県下に広く分布しているのかもしれない．

○ セモンホソオオキノコムシ Dacne picta Crotch も，14exs.採集することができた（5-Ⅵ-1987）．採集して帰ってからオオキノコムシに違いないと思い，文献に当たってみてもどうも種名を決定することができなかった．こんなにたくさんいるのにまったく図説もないというのが不思議でならない．オオキノコムシとは違うのだろうか，何科の甲虫なのかとまったく見当もつかなくなってしまった．そこで，そのうちの２exs.を福井大学の佐々治寛之博士にお送りして見て頂いたところ，これは羽化後間もない個体でセモンホソオオキノコムシと同定されるとご返事頂いた．同博士も対馬で同じような淡色の本種を多数採集して，新種ではないかと喜んだことがあるというようなこともご教示頂いた．オオキノコムシの未熟個体では黒色部が発現しない個体があるとのことで，やはりオオキノコムシに間違いなかったのであるが，これだけ色彩が淡色ではまったくわからない

なあと感心させられた（採集したものは全部橙黄色で，上翅にごくわずかに黒味がかった部分があるだけで，原色図説とはまったく違った印象を受ける．ヒトクチタケの中にもぐり込んでいた）．ところで，この種は兵庫県下からは，久松定成氏の三原郡論鶴羽山（1973）が知られているだけで，県下ではほかにまったく記録の見られないオオキノコムシである．久松氏も一度に47exs.も採集したように多くいるのに，ほかに産地が知られていない不思議な種でもある．

末文になって申し訳ないが，同定して頂いた佐々治寛之博士に厚くお礼申し上げる．また，いつも採集に援助して頂いている蜂谷幸雄氏にもお礼申し上げる．

《付記》同じ場所の倒木に生えているキノコからセモンホソオオキノコムシが，9月4日に4exs.，9月11日に2exs.採集できた．これらも同じような個体で，この時期も羽化直後の状況なのだろうか．

その後，1987年7月7日，神戸市北区神戸電鉄有馬口から逢山峡に入った．かつてキャンプ場があった跡地で1本の立ち枯れのマツがあり，約20個のヒトクチタケが目撃できた．あまり日当りの良くない所で，マツも細いしヒトクチタケも小さかった．そして，何よりも虫が喰った穴のあいているものが少なかった．一応10数個を開いてみたが，次のように種類数・個体数ともに西宮市船坂で観察した場合より少なかった．標高は，この地も約350mである．時期の関係，マツの大きさ，ヒトクチタケの大きさなど条件が多々あると思われるが，それにしても少なかった．

逢山峡でのヒトクチタケより採集した種類

Aphenolia pseudosoronia Reitter

オオヒラタケシキスイ（8）

○Circopes suturalis (Reitter)

チビムクゲケシキスイ（1）

Parabolitophagus felix (Lewis)

カブトゴミムシダマシ（9）（うち2exs.未成熟個体）

○印はヒトクチタケで採集された甲虫として初めてのものであり，オオヒラタケシキスイは船坂より多くいた（カッコ内は採集個体数）．

以上のようにヒトクチタケはマツの樹に生じるキノコであるから，県下でもいろんな所で見られると思う．種々の条件が異なれば集まる虫の顔ぶれも変わることが予想され，多いとか少ないとかキノコの状態，季節，時期，気温とかに着目して調べれば面白いと思われる．

参考文献

玉貫光一（1930）ヒトクチタケに寄生する昆虫類（1）（とくにカブトゴミムシダマシについて），昆虫 4(4):215-224.

飯田信三（1938）ヒトクチタケを繞る甲虫群，昆虫界 6(56):768-772.

中根猛彦（1948）ヒトクチタケの甲虫類，新昆虫 1(7):288-293.

久松定成（1962）ヒトクチタケをめぐる若干の甲虫類について，あげは（10):8-10.

林　長閑（1986）甲虫の生活．築地書館．

訂正とお詫び

ＩＲＡＴＳＵＭＥ１１号に，次のような誤りがありました．ここに謹んでお詫びをし，訂正させていただきます．

- P.14の下から７行目と８行目　　広瀬　誠（誤）→枝　重夫（正）
- P.36の14行目
  大きな収穫であた（誤）→大きな収穫であった（正）
- P.89の下から３行目
  ホソツヤヒゲナガコガネ（誤）→ホソツヤヒガナガコバネ（正）